

## 平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年1月30日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 テリロジー  
 コード番号 3356 URL <http://www.terilogv.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長  
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 津吹 憲男  
 (氏名) 阿部 昭彦

TEL 03-3237-3291

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	2,012	14.8	88	—	76	—	56	—
23年3月期第3四半期	1,753	3.0	△199	—	△214	—	△223	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	367.11	—
23年3月期第3四半期	△1,453.04	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	2,880	1,166	40.5
23年3月期	2,761	1,106	39.7

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 1,166百万円 23年3月期 1,096百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,800	16.6	50	—	50	—	50	—	325.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	156,800 株	23年3月期	156,800 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	3,000 株	23年3月期	3,000 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	153,800 株	23年3月期3Q	153,800 株
----------	-----------	----------	-----------

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	6
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から一部回復の兆しが見られたものの、欧州の財政問題などの金融不安を背景に長期化する円高・株安の進行などの影響により、国内経済の先行きは不透明な状況が続いております。

このような経営環境の中、当社は、前事業年度までの新3ヵ年中期経営計画で確立した事業体制の下、更なる営業活動の強化と新規商品の開発に取り組むと共に、固定系および移動体系の通信事業者のサービス強化に向けた各種プロジェクト、外資系大手証券会社に向けた次世代株式売買システムのモニタリングソリューション、大手製造業に向けたITインフラを活用した災害時の事業継続計画など、今事業年度の重点ターゲット分野に注力することで、事業基盤の強化ならびに事業の拡大に努めてまいりました。

当第3四半期累計期間の事業部門別の概要は以下の通りであります。

#### (通信事業者／サービスプロバイダ部門)

スマートフォンの急増に伴うデータ通信量の増加により、国内の移動体系通信業界は引き続き更なる公衆無線LANサービスの拡充によるネットワークの増強が急がれています。当部門では、通信事業者の特性に合わせた提案体制の強化により、売上高の増大に取り組んでまいりました。これにより、国内移動体系通信事業者の公衆無線LANサービスプロジェクト案件では、サービス利用者向けIPアドレス管理システムの大量一括台数の納入が進んだことで、当部門の売上は大幅に増加いたしました。また、大手通信事業者の従量課金プロジェクト案件では、当社のネットワークトラフィック制御・分析アプライアンス商品およびポリシーコントロールソフトウェア商品が採用されるなど、当部門の新規商品のビジネスは着実に成果を上げております。

その結果、売上高は654百万円（前年同期194百万円、前年同期比237.4%増）となりました。

#### (エンタープライズ部門：エンタープライズ営業部門)

当営業部門における大手製造業を中心とした主要顧客に向けた営業活動では、タイでの洪水被害の影響や経済全般の先行き不透明感から、IT設備投資は抑制傾向にあるものの、特に大手製造業では、事業継続計画や災害復旧対策に伴い、多地拠点間でのビデオ会議システムやIPアドレス管理商品と、これらを含むネットワーク構築案件が引き続き堅調に推移しました。また、当事業年度より新たに販売開始したネットワークパフォーマンス管理新商品や、仮想化環境での障害原因分析ツールの販売も当部門の売上に貢献しました。

#### (エンタープライズ部門：ファイナンス営業部門)

当営業部門における外資系大手証券会社等に向けた営業活動では、引き続き、香港オフィスの開設準備を進めると共に、アジア・パシフィック地域の主要証券取引所および外資系大手証券会社における案件獲得に注力しました。これにより、国内外の主要証券取引所ならびに外資系大手証券会社の次世代株式売買システム向けネットワークモニタリング案件は順調に増加しています。また、ネットワークパフォーマンス管理商品によるネットワーク構築案件を香港の外資系証券会社から受注するなど、営業活動は順調な立ち上がりを見せております。

しかしながら、次世代株式売買システムに関する案件は大型プロジェクトでかつ高額であり、商談から受注、納品・検収までの期間が長く、当部門の当期売上に貢献するまでには至りませんでした。

以上の結果、エンタープライズ営業部門はほぼ堅調であったものの、ファイナンス営業部門の案件受注がずれ込んだために、エンタープライズ部門全体としての売上高は531百万円（前年同期776百万円、前年同期比31.5%減）となりました。

#### (保守サービス部門)

当部門におきましては、保守業務の内製化による業務委託費の削減、既存顧客の保守契約更新率の向上など、高収益体質の確立に努めてまいりました。これにより、当社の安定的な収益基盤である当部門の売上高は堅調に推移いたしました。

その結果、売上高は825百万円（前年同期782百万円、前年同期比5.5%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,012百万円（前年同期1,753百万円、前年同期比14.8%増）と、前年同期の実績を上回る売上高となりました。

利益面につきましては、売上高増加による増益ならびに経費の低減に努めた結果、営業利益88百万円（前年同期は199百万円の損失）、経常利益76百万円（前年同期は214百万円の損失）、四半期純利益56百万円（前年同期は223百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末における流動資産は、2,469百万円（前事業年度末は、2,378百万円）となり90百万円増加いたしました。現金及び預金の増加（1,669百万円から1,775百万円へ106百万円増加）、受取手形及び売掛金の減少（341百万円から202百万円へ139百万円減少）、商品の増加（81百万円から150百万円へ69百万円増加）等が主な要因であります。

当第3四半期会計期間末における固定資産は、411百万円（前事業年度は、382百万円）となり28百万円増加いたしました。ソフトウェア仮勘定の計上38百万円等が主な要因であります。

当第3四半期会計期間末における流動負債は、1,648百万円（前事業年度は、1,602百万円）となり45百万円増加いたしました。買掛金の減少（182百万円から135百万円へ46百万円減少）、前受金の増加（439百万円から484百万円へ44百万円増加）、未払消費税等の計上17百万円等が主な要因であります。

当第3四半期会計期間末における固定負債は、66百万円（前事業年度は、51百万円）となり14百万円増加いたしました。リース債務の増加（37百万円から52百万円へ15百万円増加）等が主な要因であります。

当第3四半期会計期間末における純資産は、1,166百万円（前事業年度は、1,106百万円）となり59百万円増加いたしました。四半期純利益の計上による利益剰余金の増加（△424百万円から△368百万円へ56百万円増加）等が主な要因であります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

当第3四半期累計期間の利益面につきましては、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに通期業績予想を上回る数値で推移しておりますが、当社を取り巻く経営環境が不透明であることから、平成23年5月12日付け決算短信で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,669,012	1,775,295
受取手形及び売掛金	341,768	202,125
商品	81,307	150,806
仕掛品	9,213	24,126
前渡金	245,228	289,029
その他	34,507	29,680
貸倒引当金	△2,140	△1,357
流動資産合計	2,378,896	2,469,707
固定資産		
有形固定資産	83,581	115,415
無形固定資産	52,450	74,115
投資その他の資産		
その他	350,852	321,140
貸倒引当金	△104,462	△99,449
投資その他の資産合計	246,390	221,690
固定資産合計	382,422	411,221
資産合計	2,761,319	2,880,928
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	182,024	135,644
短期借入金	886,600	907,000
未払法人税等	5,743	5,243
賞与引当金	23,112	18,297
前受金	439,943	484,712
その他	65,204	97,350
流動負債合計	1,602,627	1,648,247
固定負債		
資産除去債務	10,200	10,200
その他	41,555	55,854
固定負債合計	51,755	66,055
負債合計	1,654,383	1,714,303
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,182,604	1,182,604
資本剰余金	630,370	630,370
利益剰余金	△424,518	△368,056
自己株式	△280,637	△280,637
株主資本合計	1,107,818	1,164,280
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△11,554	2,344
評価・換算差額等合計	△11,554	2,344
新株予約権	10,671	—
純資産合計	1,106,935	1,166,625
負債純資産合計	2,761,319	2,880,928

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	1,753,331	2,012,442
売上原価	1,265,465	1,324,259
売上総利益	487,866	688,182
販売費及び一般管理費	687,313	599,448
営業利益又は営業損失(△)	△199,447	88,734
営業外収益		
受取利息	419	207
受取配当金	1,790	1,902
還付消費税等	—	5,012
助成金収入	4,591	—
その他	802	1,733
営業外収益合計	7,604	8,856
営業外費用		
支払利息	9,542	11,781
為替差損	12,822	9,484
その他	39	0
営業外費用合計	22,404	21,266
経常利益又は経常損失(△)	△214,247	76,324
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,822
貸倒引当金戻入額	577	—
新株予約権戻入益	1,092	10,671
特別利益合計	1,670	12,493
特別損失		
投資有価証券評価損	—	16,599
会員権売却損	—	13,115
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,959	—
特別損失合計	6,959	29,714
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△219,536	59,103
法人税、住民税及び事業税	2,835	2,835
法人税等調整額	1,106	△193
法人税等合計	3,941	2,641
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△223,478	56,461

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。